

創学舎ニユース

No.226

親子の関係

(番外編)

「あの男」の話である。私と母が医療保護の申請に行ったとき、ねちねちと小言をいったあの男は、友人の父親であった。私はその顔をよく覚えていたが、むこうは全く気付いていなかった。(それも当然。十年前前の、役所での対応など覚えてはいるはずがない。)で、その父親は快活でとても良い人だった。いろんな話をしてくれ、けっこう元気づけてもらった。本当に良い人だった。

こうして、田舎に帰っているんな人に会うと、また新しいことに気付いた。人間は、誰でも偏見をもっていて、それがあつた場面になると突出した形で発言となり、行動となつて出てくること。しかも、それは弱者に対して向けられること。そして、そういう偏見は、当事者の間ではきちんと完結していて、一つの価値基準となっていること。しかし、そういう偏見は、その人の心の一部であつて、家族や親族や会社など、その人が生きていく共同体の中では、その人は良き人でありうること。そして、おそらくは自分で気付いていないだけで、私自身もそつ

う人間の一人なのだろうということ。そして、また、たった一つか二つのいやな言動をもつて、相手に悪感情を抱いてしまつこと自体も偏見であること。

こういつ感じ方は、実は私が一人でたどりついたものではない。先月号で書いた友人のHさんが、ずっと私に言い続けていたことであつた。それを、東京に出ているんな人に会い、いろんな経験をし、田舎でも、同じ人が全く別人のよつな対応をしてくれたことなどから、自分が実感するに至つたのである。それとともに憎悪のよつな感情は徐々に消えていつたと思う。

しかし、「偏見」についてこだわらなくなつた自分は、その後もいろんなことに思い悩むようになる。そんな自分を決して嫌いではないのだが、人と会話するとき、断定的なことを言われると、つい「まてよ・・・」という気になることが多くなつた。いい奴と楽しい時間を過ごしているときに、これは困つた。ごく最近の例でいくと、私が大変お世話になつた人が、「米百俵」をめぐつてこのコメントをした。「素晴らしい。まさに今の時代に必要な考え方だ。」でも、私はこつ思つのである。「今まで、何百億俵ではきかないよつな無駄を重ねてきたのは誰なんだ。そんなことを言つ資格はないだろう・・・。」でも、世の大勢からいけば、私の考え方は偏つていくことになるらしい。以下次号。

(小林)

教育名言「紹介」(1)

学問はそれ自身の使用法を教えない。

出典 フランシス・ベーコン 一五六―

一六二九 イギリス『ベーコン随想録』

解説 人は何のために学ぶのか。仕事・社交・楽しみ・慰みなどのために、人は学ぶ。そつした動機で学んだ学問・知識は、確かに役立ちます。けれども、そつした動機や有用性の次元を超えた学問の本当の目的、学びの目的がある。それはほかでもない、人間自らの本性の完成なのだ、とベーコンは言っている。何を学んだのかによつて人はそこから影響を受け、その人となりはつくられる。性格の欠陥、こころの適性の不具合、そついったものの矯正、克服に学問は力をもつ。「学問は性格となる」という言葉をベーコンは引いて、その点を説明しようとしている。

しかし、ベーコンが最も強調する点は次のことなのだ。「学問は本性を完全にし、経験によつて完成される」ということ。言い換えれば、「学問そのものは、経験によつて制御されなければ、あまりに漠然とした指図をわれわれに与えるにすぎない」ということだ。つまり、我々人間の主体的経験の媒介なしには、学問はつかみどころのないものであり、人間の生きた経験によつて限定を加えられ、実人生の意味との重ね合わせ

せの作業なしには、学問には本来的価値はない、ということだろう。何のために人は学ぶのか、いかに学ぶことが有益なのか、その点は、実は学びの主体である我々自身が学びのプロセスの中でそれとして独自に追求すべき事柄なのだ。

ベーコンは言っている。実際の人は学問を軽蔑し、単純な人はそれに感心するのみ。賢い人だけがそれを利用することができる。賢い人だけがそれを可能にする知恵をもっているからだ、と。人間の知恵とはしかし、学問だけから得られるのではない。それは学問を超えた人生における観察と省察によつて獲得される性質のものなのだ、と。「学問はそれ自身の使用法を教えない」。

こつしてみると、何のための学びなのかは、いかに生きるかという問題との関わり抜きには考えられないことがわかる。今日、学びのおもしろさが失われ、学びの動機が外部から権威的脅迫的に与えられる社会、教育システムの下では、何のために学び「生きるかは、子どもたち若い世代には許されぬ「問い」、先送りをよぎなくされる「問い」となっている。だがその問いこそ、自己の生き方、アイデンティティーのあり方と分かちがたく結びついた根源的な問いなのだ。こつして私たちはベーコンの言葉を通じて、今日子どもから発せられる「なぜ勉強しなければいけないのか?」という根源的な学びと

教育への「問い」について深く考えさせられることになる。

(マカトス教育研究所)

親子の関係(五二)

物事の本質を知りたい。人間性への理解を深めたい。二つとも私の心の中にある欲求の一部である。そしておそらくこれは万人の心の中にある欲求でもある。ただ、その欲求の強さ、その欲求の充足に適する環境の有無や程度に応じて、その人の行為が分かれるのである。

では私は、物事の本質を知るために全力をあげているか、人間性への理解に精魂を傾けているかといえばそうではない。おそらく、自分の気質のせいで、また職業柄もあって、他の人より少し注意を向けているという程度であろう。だから、何事についても、その認識はまだまだ表層的であり、断片的である。例えば、関心のある事物について少し本を読む。で、少し知識と認識は深まる。(勿論、誤った認識を一時的にもってしまつ可能性もある。)そして少し充たされる。しかし、今度は別の関心事が心をとらえて、また、こなさなければならぬ仕事も発生して、先の関心事について継続的な探求はしなくなる。だから何もかも中途半端。いつも指導している生徒達の勉強ぶりを嘆く前に、実は自分のふがいなさをこそ嘆かなければならないの

だ。

ところでこの仕事を始めて約二十年。おかげ様で何とか生をつないでこまでこれた。恥ずかしながらもともと、それほど深い動機で入った業界ではなかったが、不思議なもので自分が親となり、また大勢の子供達の相手をし、その父母の方との出会いを重ねていくうちに手こたえも意義も徐々に自覚されてきて、この仕事をやってきてよかったと思える所まで来た。まことに、人は一人では生きられない、人は一人では成長できないこと。実感である。深謝。

さて、前おきが長くなったが親子の関係、再開である。三月か四月に書いてから中断したので、以前の記憶がない方も多いと思うがご容赦を。愛情不足の人間が愛情不足の子供を再生産するという話で終わっていたはず。その続きである。

愛情不足で育ってきた親は、当然、情緒の成熟や安定を獲得できていないはずがなく、しかし、立場としては親なので、未成熟のまま不安定なまま子育てを担うこととなる。(私自身、欠点だらけの人間で、親としても失格の部分も多々だがそこは棚上げさせてもらって筆を進めたい。)そうした親の最大の特徴であり、共通点でもあるのは、自分の心の安定をはかるために、子供を徹底的に利用するということである。

(小林)

応用問題を

解くには

「基本問題は解けるのだけれども、応用問題になると解けない。どうすれば応用問題が解けるようになるだろうか。」という趣旨の質問を受けることがよくあります。今回は、応用問題が解けない原因とその対策を考えてみたいと思います。

第一に基本問題は解けるという認識の誤りがあります。基本問題が解けるといふ生徒の多くは、基本問題とは易しい問題という認識のうえに立っています。しかし、これが大きな誤りです。基本とは易しいという意味ではありません。そのものの根幹をなすものという意味です。言い換えれば原理・原則ということです。応用問題が解けないという人の多くは、易しい問題がなんとなく解けるだけで、基本問題が解けているわけではないのです。まずは、基本問題を徹底的におさえるべきです。基本問題を解くときの留意点は、常に理解、納得が伴わなければならないということ。一つ一つ確実にこなす体にしみこむまで繰り返す。これだけで大半の応用問題が解けると言っても過言ではありません。

第二に、応用問題というものは基本問題の複

合体ですから、これを解きほぐす作業が必要となります。この訓練ができていないと、基本問題は解けても応用問題は解けないということになるわけです。この解きほぐす作業(思考)ができるためには二つの条件が必要です。一つは、基本問題が確実に理解できていること。もう一つは、ある程度応用問題にあたって考える習慣を身につけていることです。応用問題が解けない人に多く見られるのですが、解答・解説があったとしても、それを読みこなせない。あるいは、読むことさえしないのです。自分の頭で考えることを放棄していたのではいつまでたっても応用問題を解きほぐすことはできません。

頭を使わないで機械的な作業を繰り返しても基本問題の理解にはつながりません。例えば、意味も理解しないで、英文を丸暗記したり、読めない漢字や英単語を覚えるというのが機械的作業です。これらの悪い習慣を改め、徹底的に頭を使って基本問題の理解に努め、その複合体をときほぐす訓練を行うこと。これが応用問題と言われる問題が解けるようになる道です。自分の勉強法を少し考えてみてください。(村上)

卒業や転校等で創学舎を離れる方にも、

「希望があれば、創学舎ニュースを無料でお送り致します。在籍した教室までご連絡

下さい。